



大卒野手、大卒社会人の即戦力投手が次々に台頭  
やや投手に課題も各出身カテゴリーで主力が育つ

**高卒 目立つ野手の躍進**

2007年からの10年で入団した高卒選手は投手10人、野手13人で計23人と比較が少ない。

1位投手の出世頭は09年1位の菊池雄星(花巻東高)。14年1位の高橋光成(前橋育英高)と12年2位の相内誠(千葉国際高現在・翔凨高)は少々伸び悩んでいる。菊池も台頭するまで時間がかかったが、両投手ともそろそろ1軍に定着してほしいところだろう。下位では07年高校4巡目の武隈祥太(旭川工高)がリリーフで貢献している。

野手は、投手以上に到達度が高い。13年1位の森友哉(大阪桐蔭高)は若手屈指のスラッガーとして力を発揮している。毎年このよう

に捕手が指名打者で起用がぶれるが、バット1本で勝負できればタイトルに手が届くだろう。森の高校の先輩にあたる浅村栄斗(08年3位)の活躍は言うまでもなく、下位に目を向けても07年高校7巡目の斉藤彰吾(春日部共栄高)と11年4位の永江恭平(長崎・海星高)は主力には至っていないが、チームに貢献している。若手では15年4位の愛斗(花咲徳栄高)、16年4位の鈴木将平(静岡高)が順調に伸びてきている。「下位指名の野手は伸びる」というのは、西武の高卒野手にこそ当てはまる言葉という気がする。

**大卒 高い到達度の野手**

大卒1位の投手は大石達也(早稲田大、10年)と多和田真三郎(富

**西武スカウト**

球団本部シニアディレクター兼編成部長  
渡辺久信

編成部(育成アマ担当部長)  
前田俊郎

編成部(育成アマ担当)  
渡辺智男、水沢英樹、竹下潤、後藤光貴、鈴木敬洋、大島裕行、安達俊也、高山久

士大、15年。両投手ともに基準に達しているもの、本来の能力を出し切っているとはいえない。上位から下位を見ても、期待に応えている投手は少ない。

一方、野手は高卒以上に活躍が目立っている。1位の選手こそいないが、上位で秋山翔吾(八戸大、10年3位)、金子侑司(立命館大、12年3位)が基準に到達し、ともに富士大出身の山川穂高(13年2位)と外崎修汰(14年3位)は基準に未到達ながらレギュラー獲得間近だ。下位では08年4位の坂田遼(函館大)が基準に達している。

**高卒社会人 地味だが外れもない**

投手は上位で指名した野上亮磨(日産自動車、08年2位、現巨人)と野田昇吾(西濃運輸、15年3位)

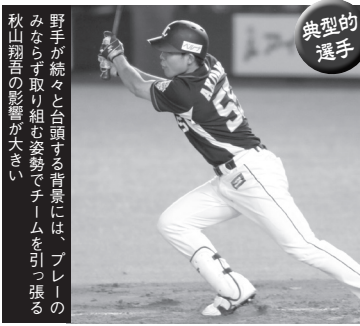
が基準に到達している。野手は指名が少なく、10年6位の熊代聖人(王子製紙)と13年6位の岡田雅利(大阪ガス)の2人。投手、野手ともにバリバリのレギュラーというわけではないが、期待を大きく外してもいないといったところだろうか。

**大卒社会人 野手は源田だけ**

大卒社会人の野手は昨季の新人王、源田壮亮(トヨタ自動車、16年3位)が唯一の指名。

投手は9人と多く、合計投球回も出身カテゴリー別でもっとも多い。1位では十亀剣(JR東日本、11年)、増田達至(NTT西日本、12年)が主力として貢献している。上位では今季メジャーに移籍した牧田和久(日本通運、10年2位、現パドレス)が先発リリーフでチームを支えた。下位では12年4位高橋朋己(西濃運輸)と09年6位の岡本洋介(ヤマハ)が基準に到達。昨季のルーキー、平井克典(Honda鈴鹿、16年5位)は基準に未到達だが、1年目から42試合に登板。期待に応えたといっ

西武 2007年以降の指名分布と成績												
投手												
出身	順位	指名人数	試合	勝	負	H	S	投球回	防御率	基準到達人数	基準到達率	主な典型的選手
高卒	1位	4	187	71	59	0	1	1064	3.05	1	25%	※菊池雄星、高橋光成、今井達也
	上位	1	9	0	5	0	0	18	15.00	0	0%	相内誠
	下位	5	278	20	13	49	1	316.2	3.61	1	20%	※武隈祥太、玉村祐貴、藤田航生
	育成											
大卒	1位	2	154	16	16	10	8	322.1	3.63	2	100%	※大石達也、※多和田真三郎
	上位	5	125	11	9	10	0	221.1	5.08	0	0%	佐野泰雄、川越誠司、中塚駿太
	下位	5	41	0	2	0	1	60	5.40	0	0%	本田圭佑、國場翼、田村伊知郎
	育成											
高卒社会人	1位											
	上位	2	267	54	56	12	2	957.2	3.95	2	100%	※野上亮磨(現巨人)、※野田昇吾
	下位	3	44	1	0	1	0	48.1	4.47	0	0%	宮田和希、山口嵩之、南川忠亮
	育成											
大卒社会人	1位	3	485	61	67	91	63	1094.2	3.74	2	67%	平野将光、※十亀剣、※増田達至
	上位	3	406	56	56	59	26	1112.2	3.15	1	33%	※牧田和久(現パドレス)、小石博孝、豊田拓矢
	下位	3	326	21	21	56	53	507.1	3.94	2	67%	※岡本洋介、※高橋朋己、平井克典
	育成											
独立	1位											
	上位											
	下位	1	2	0	0	0	0	2.2	0.00	0	0%	松本直晃
	育成											
野手												
出身	順位	指名人数	試合	打数	安打	本塁打	打点	盗塁	打率	基準到達人数	基準到達率	主な典型的選手
高卒	1位	1	324	1027	302	35	147	4	.294	1	100%	※森友哉
	上位	2	970	3534	1003	115	518	64	.284	1	50%	※浅村栄斗、駒月仁人
	下位	9	723	641	113	7	38	28	.176	2	22%	※斉藤彰吾、※永江恭平、愛斗
	育成	1								0	0%	戸川大輔
大卒	1位											
	上位	5	1745	5911	1640	135	636	245	.277	2	40%	※秋山翔吾、※金子侑司、山川穂高
	下位	5	443	1044	234	22	121	6	.224	1	20%	※坂田遼、田代将太郎(現ヤクルト)、呉念庭
	育成	1								0	0%	藤澤亨明
高卒社会人	1位											
	上位											
	下位	2	579	720	165	1	50	10	.229	1	50%	※熊代聖人、岡田雅利
	育成											
大卒社会人	1位											
	上位	1	143	575	155	3	57	37	.270	1	100%	※源田壮亮
	下位											
	育成											
独立	1位											
	上位											
	下位											
	育成	1	76	56	17	0	5	5	.304	0	0%	水口大地



**秋山翔吾 (2010年3位)**  
典型的選手

野手が続々と台頭する背景には、プレーのみならず取り組む姿勢でチームを引っ張る秋山翔吾の影響が大きい。

**独立 あまり重視していない傾向**  
独立リーグからの指名はこの10年間で2人。下位と育成で1人ずつとあまり重視していない傾向にある。

全体の傾向を見ると、出身のカテゴリーや指名順位で偏ることなく、基準到達選手を満遍なく生み出し、出ていることが西武の特長だ。主力度でいえば、やや野手に寄っているように感じ、投手陣に苦勞する近年の流れにつながる。

表の見方: [順位] [上位]は2、3位指名(高校生ドラフトも準ずる)。「下位」は4位指名以下。【基準】投手は20勝、50ホールド、50セーブ、100登板、野手は150安打、300試合を果たした選手を基準到達者とする。ただし、2015～16年に指名された投手は10勝、25ホールド、25セーブ、50登板、野手は75安打、150試合で基準到達。【成績】プロ入り時に所属した球団での成績。【主な典型的選手】名前の前に「※」がついている選手は基準到達者。